

NPO法人 Poco a Poco 令和元年度事業報告

1. 事業の成果

令和元年度は、新しい環境下で迎える初めての事業年度であった。第1四半期にはまだ追加の付帯設備の工事（照明や空調関連等）が残されており、なかなか落ち着ける環境とは言えない状況であったが、夏ごろからようやくあんだんてらしい日常を取り戻すことができた。

利用者の状況としては、非常に出入りの多い一年であったと言える。新規利用開始の方が15名いたが、そのうち半数以上が1年経過しないうちに自己都合による退所となった他、体調不良などでほとんど通所できない方がいたり、隔日での通所が多かったりで、年間を通しての合計通所日数は平成26年度以降の最低記録（対前年比91パーセント）となってしまった。令和元年度は、国民の休日が特別に多いなどの事情があったとはいえ、定員30名のところが一日平均16.5名の通所となり、次年度以降に課題を残す結果となった。

令和元年度の就職は、地方自治体の職員に1名採用のみであった。（採用が4月1日付けだったため、実質的には前年度となる）

就労支援会計（作業会計）については、売上高、工賃支払額共に前年実績を上回る結果となった。パソコン入力業務については2社との提携を行ったが、1社は受注開始前に廃業となり、残る1社と業務を開始したが単価があまりにも低く、内職を下回ってしまったため、中止となった。木工作業に関しては、特にあんだんてのショップが健闘しており、好調である。また、東松山市や観光協会の受注も定着してきており、堅調に推移することができた。それ以外にも東京都内の新しい取引先との契約も進行中であり、今後に期待すること大である。

家族支援については、年間を通し定例家族会を開催し、面談や電話による対応、相談支援機関や行政・関連機関とのチーム連携等、個々の案件に個別対応してきた。啓発活動事業については、2月10日に登戸診療所院長 精神科医飯田茂先生をお招きして、「強迫性障害」をテーマにご講演頂いた。

第4四半期は新型コロナウイルスの為、非常事態となっておりまだまだ先が見えないが、出来る限り平常通りの運営を行い、利用者ひとり一人の障害福祉の一助となるよう努力いたす所存である。

2. 特定非営利活動に係る事業報告（令和元年4月1日～令和2年3月31日）

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
障害福祉サービス事業	就労継続支援B型事業	毎週5日 9:00～16:00	当法人の施設	常勤・パート 職員7名	支援登録障害者 28名	33,585
啓発活動事業	こころの健康講座	年・1回 2月10日	当法人の施設	常勤・パート 職員7名	支援登録障害者・家族・ 一般市民30名	58